

令和4年度 厚生委員会行政視察報告書

厚生委員会
委員長 久保 大憲

1 視察期間 令和4年9月30日（金）

2 視察先及び視察事項

（1）富山市民プール、富山市民球場

「8月の大雨による被害状況について」

「令和3年度の整備状況について」

（2）社会福祉法人ルンビニ園

「施設の概要について」

（3）富山市立愛育園・慈光園

「8月の大雨による被害状況及び施設の老朽化について」

「隣接施設での世代間交流の状況について」

3 視察参加委員

委員長 久保 大憲

副委員長 東 篤

委 員 柏 佳枝

〃 織田 伸一

〃 吉田 修

〃 押田 大祐

〃 成田 光雄

4 随行職員

議事調査課議事係長 酒井 優

議事調査課主査 中村 千里

5 視察概要

富山市民プール、富山市民球場

(1) 視察事項

- ・ 8月の大雨による被害状況について
- ・ 令和3年度の整備状況について

(2) 視察の目的

今年8月に発生した大雨による公共施設の被害状況とその対応について確認し、今後の委員会活動の参考とするもの。

また、令和3年度における施設の整備状況についても確認し、決算審査の際の参考とするもの。

(3) 取組の概要

富山市民プールでは、本年8月13日に発生した大雨により、2階のデッキ部分から施設内に雨水が侵入したことで、自動火災報知器が浸水して故障し、火災受信盤の復旧ができない状態となった。その後、浸水した火災報知器2器を取り外すことにより、ほかの機器が正常に感知できるよう受信盤を復旧させた。

調査の結果、配管内にモルタルの塊のような詰まりが確認され、排水不良で雨水があふれたことが原因と考えられるが、施設では当該配管が示された図面がないことから、修繕を行うに当たってどのように進めていけばよいのか、施設を管理している指定管理者のほうで検討を重ねていたものの、なかなか結論に結びつかなかった。

この後、被害報告書を作成し、修繕等の対応について市と協議を進めるとのことである。

また、富山市民球場では本年8月20日に発生した大雨により、三塁側内野席の排水溝があふれ、内野席壁からグラウンドへの出入り通路に雨水が侵入し、広範囲の浸水が発生した。雨水によって流された土や砂などがたまったことが原因と考えられる。職員によって復旧作業と点検を完了し、異常がないことを確認した。

夜間は人員が少ないため、復旧作業時の安全面において配慮が必要とのことである。

さらに、令和3年度の整備状況として、更新を行った内野スタンド観客席について説明を受け、理解を深めた。

(4) 所感

〔久保委員長〕

富山市民プールでは、8月の大雨で2階入り口の排水ができず浸水し、雨漏りが発生していた。状況から判断して、指定管理者が修繕するレベルのものではなく、市が主体となって調査し、工事発注すべきものだと感じた。

富山市民球場は、老朽化が進み計画的に修繕しなければならないが、県営球場も老朽化していることから、球場の在り方について積極的な議論をすべきと感じた。

両施設共に市民生活部との情報共有はスムーズに行っているようだったが、指定管理とはいえ市民生活部の積極性が不足していると感じた。

〔東副委員長〕

8月の大雨時、施設内部に浸水した富山市民プールは築22年、富山市民球場は築30年と、共に老朽化が進んでいる。

富山市民プールでは、2階出入口前の踊り場の排水管が詰まっていたことから内部に浸水し、1階更衣室に達した。施設の配管構造図が見つからず、指定管理者が苦労して修繕の見積りを作成中とのことであった。作成に困難が想定されることから、行政側のサポートが必要だと思われる。

富山市民球場では三塁側内野席の雨水があふれ、その下にある施設が浸水した。内野席の最前部に溝が設置されているが、雨水で押し流されたごみなどが排水管に詰まったことが原因の一つではないかとのことであった。当時の周辺の時間雨量は47ミリメートルであったとのこと。

両施設とも、応急措置として止水板の設置が妥当かと思う。

〔柏委員〕

富山市民プール、富山市民球場においては、8月の記録的な大雨の被害状況について説明を受け、状況を確認した。

富山市民プールでは、女子更衣室天井から雨漏り被害があり、2階デッキ排水溝の不具合により冠水したことが原因とのことで、今後、指定管理者と富山市がどのように対応策を取っていくのか検討中とのことである。

富山市民球場では、1時間に47ミリメートルの雨が降り、観客席が70センチメートルほど冠水しグラウンドへも流水した。雨水により砂やごみなどが排水溝にたまり、流れを悪くしたことが原因とのことであった。

現在、浸水防止工事など、様々な老朽化対策を行っているが、今後は照明器具のLED化なども含めて、さらにあらゆる面からの老朽化対策が課題となると感じた。

〔織田委員〕

富山市民プールは、8月の大雨によって1階天井に漏水が発生した。また、漏水によって天井直づけの火災報知器が午後11時過ぎから誤作動により警報が鳴り、消防が駆けつけることになった。発生原因は、屋外2階階段部に設置してある雨水側溝の排水ドレーンに接続する配管の詰まりが起因と見られる。配管内に固着物があり、容易に撤去できるものではないとのことである。配管経路が設計図書では確認できないということであり、今後は、指定管理者の報告を待ち、当局は指定管理者とよく相談しながら、最良の修繕対策が講じられるような取組が必要である。

富山市民球場は、8月の大雨によって観客席の一部に最高70センチメートル程度の水がたまり、1階天井などに漏水が発生し、指定管理者は排水対応に迫られた。1時間に47ミリメートルという経験のない大雨により観客席の床面の砂ぼこりなどが一度に洗い流され、これがドレーンにたまり排水不良となったことが原因である。当日、2

名が管理番に当たっていたが1名は管理室におらねばならず、1名のみでこの現場対応に当たった。経験したことがない降雨などの事象に対しての安全管理の在り方について、この事象を経験として検討が必要と思われる。

〔吉田委員〕

富山市民プールでは、8月の豪雨での浸水被害の現地視察となった。2階デッキの排水路が詰まって被害に及んだことがよく分かった。修繕には多額の費用を要し、市が主導して補正予算を組む必要があることは、委員共通の認識であろう。

富山市民球場は当面の浸水対策とともに、老朽化に伴い計画的な修繕の事業継続が必要である。その先に、プロ野球オールスターゲームの招致が実現することを望みたい。

〔押田委員〕

富山市民プールでは施設内の雨漏りを確認した。大気的不安定による豪雨だったが、外部テラスの排水管の詰まりで発生したものと思われる。前管理者も現管理者も詰まりの認識があったが、構造上の関係で修理できていなかった。費用面もあるため、全ての工事はできないにしても市当局は管理者任せではいけない。自ら出向いて確認し、どのような気象のときにどういう被害が起こり得るのかの備えを怠ってはいけない。

富山市民球場では、客席に水がたまり排水できなかった。指定管理者の対応により難を逃れたが、施設内の排水より施設外への排水に難が出ないのかの対応も必要だ。また、開設より長い年月がたっているので、照明の更新は不可避である。

〔成田委員〕

8月の大雨による被害状況について現地を視察してきた。

まず、富山市民プールは2階ベランダからの浸水にて2階フロアが水につかったことで漏水が起こり、1階の火災感知器が誤作動した。直接的な原因ではないが、今回の件でベランダのドレーン排水詰まりの対応など、業務委託管理と施設管理の在り方を検討する必要があると感じた。

富山市民球場の浸水対策に関しては、業務委託の範囲を超えているので、構造的改善が必要だと感じた。

社会福祉法人ルンビニ園、富山市立愛育園・慈光園

（1）視察事項

- ・施設の概要について（社会福祉法人ルンビニ園）
- ・8月の大雨による被害状況及び施設の老朽化について（富山市立愛育園）
- ・隣接施設での世代間交流の状況について（富山市立愛育園・慈光園）

（2）視察の目的

社会福祉法人ルンビニ園は、児童福祉法に基づく児童養護施設であり、昭和22年1月に開設された。以来、子どもたちや家庭を取り巻く環境の変化を踏まえ、児童福祉法

や児童養護施設運営指針に基づいて、子どもたちの幸せと心豊かな成長を見守り、社会的に自立するための支援をしながら家庭や地域との連携に努めている。当該施設への理解を深め、今後の委員会活動の参考とするもの。

富山市立愛育園・慈光園は、隣接する複合施設として様々な世代間交流を図っており、その状況について調査し、今後の福祉施策の参考とするもの。また、8月の大雨による被害状況とその対応について調査し、委員会活動の参考とするもの。

（３）取組の概要

社会福祉法人ルンビニ園では、創立以来、「子どもである前に独りの人間として尊ばれる」ことを基本理念として様々な養育支援を行ってきた。現在は、37名の入園児童に対し、保育士や児童指導員を主とする33名の職員で子どもたちの生活を支えている。児童が生活する施設は男女や年代別で棟が分かれており、個室化された居室に加え、棟ごとに浴室や洗濯乾燥室も備えられている。

平成28年の児童福祉法改正によって児童養護施設の小規模かつ地域分散化が推進されたことにより、ルンビニ園でも施設の小規模化に取り組んでいる。園内にある平屋建ての建物の改修を行い1棟の小規模施設とし、また、「ラゴラホーム」が愛称である男子棟の1階と2階を完全に分断することで、さらに2棟の小規模施設を造る予定であり、今後とも施設の小規模化を進めていくとのことである。

現在は、一時保護やショートステイの受入れも行っているが、今後は児童家庭支援センターとして、相談業務などを行えないかと考えているとのことであり、児童養護施設として検討していかなければならないことが数多くあるとのことである。

次に、児童福祉法に基づく児童養護施設である愛育園及び老人福祉法に基づく養護老人ホームである慈光園は、平成7年に現所在地に新築、移転し隣接複合施設となった。世代間交流の状況としては、これまで年間計画を作成し、季節に応じた様々な行事を開催することで交流を図ってきた。近年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行事の中止が続いているというが、今年度は県内の感染状況を鑑み、嘱託医にも相談しながら可能な限り再開したいと考えているとのことである。主な行事として、夏祭りやふれあい喫茶、敬老会などが挙げられる。

また、愛育園では、8月20日の大雨で屋根裏が破損し、2階の子ども部屋の入口天井より雨漏りが発生した。その後、業者により破損部分を修繕することで改善されたとのことである。

（４）所感

〔久保委員長〕

愛育園、慈光園については、果たすべき役割を概ね果たせていると感じた。一方で、愛育園については国が小規模化、地域分散化を目指しており、今後の施設の在り方については厚生委員会としても注視していくことが必要だと感じた。

社会福祉法人ルンビニ園においては、施設の成り立ちや現在の状況、課題について説明を受けた。

全ての施設において、委員会を含め議員が複数で訪れる機会が今までなく、今後も定

期的に訪れてほしいとの要望があり、改めて市議会議員としての責務を果たすことの意義について考えさせられた。今回の視察を踏まえ、決算審査や定例会に臨みたい。

〔東副委員長〕

社会福祉法人ルンビニ園は1947年に開設された、様々な事情で家族と生活できない子どもたちが生活する児童養護施設である。運営が厳しい中でも年数をかけて、子どもたちの居室の個室化を進めている。近年は、児童相談所の業務である児童相談や一時保護まで、社会福祉法人に求められているとのことである。

富山市立慈光園は経済的・家庭環境などの事情で家族との同居が困難な高齢者のための養護施設、富山市立愛育園は養護を必要とする子どもたちのための福祉施設である。両施設は隣接複合施設であることを生かし、夏祭り、グラウンドゴルフなど、通年で世代間交流を図っている。愛育園には、配偶者のいない、またはそれに準ずる事情の女性と子どもを保護し、生活支援により自立を促す母子生活支援施設である和光寮が併設されている。

〔柏委員〕

社会福祉法人ルンビニ園、富山市立愛育園においては、児童福祉法に基づく児童養護施設として、環境上養育を必要とする児童を入所させ、心身共に健やかな成長と、自立を支援するとともに大事な施設である。富山市の施設は大規模施設のため、今後は地域分散型の小規模施設にしていく方向性と、併せて個室化に取り組んでいくとのことである。

また、愛育園と併設している慈光園は養護老人ホームとして、経済的な事情や家庭環境などの事情で家族と同居することが難しい方を支援する事業として、現在46名を受け入れている。いずれも入所者が健やかな生活を送るために、市としてさらに尽力していただきたいと思う。

〔織田委員〕

社会福祉法人ルンビニ園は、家庭的養護、小規模化、里親推進に取り組むと同時に、虐待などによる一時保護、ショートステイの受入れを行っている。現在、様々な奨学金制度がある中、大学への進学を希望する子どもが圧倒的に少ない状態となっており、大きな課題だと感じる。

愛育園は、8月の大雨の天井雨漏り被害は部分的なものであったことは幸いである。

慈光園と愛育園は、中央管理棟を介して隣接複合施設となっており、年間を通じて様々な交流事業を行ってきたが、コロナ禍において感染拡大防止の観点から中止や縮小を余儀なくされている。また、地域交流も同様の状況である。世代間交流は、子どもたちにとっては、高齢者をいたわるといふ思いやりの醸成が期待でき、高齢者には、子どもの面倒を見ることの生きがいや、共に過ごす中で元気や意欲につながると期待される。いまだ収束が見えないコロナ禍において、リモートなどを活用した交流機会づくりの必要性を感じた。

〔吉田委員〕

社会福祉法人ルンビニ園は歴史のある児童養護施設で、園の理念と実践に敬意を表したい。国から求められている課題は、特別養子縁組・里親の推進（富山県は遅れている）、「地域分散・小規模化」（資金面が問題）という。ショートステイの料金が一泊5,600円は安すぎるとの要望を受けた。愛育園と慈光園は対象になる子ども、高齢者を公的責任（市立）で対応する施設として、努力に敬意を表し、その必要性和役割を認識した。

〔押田委員〕

ルンビニ園は民間の児童養護施設である。理事長によると、入所者は一刻も早く退所したくてたまらないとのこと。この園に長居することが是とは決して言わないが、愛着を持てるようにしなくてはならないのではないかと考える。理事長は知恵を絞って融和の道を探してほしい。

また、愛育園は市の施設であり、高齢者施設の慈光園と併設されている。ルンビニ園より施設は新しい。児童相談所がどちらへの入所を勧めるのか基準はないようだが、比較的近い地に同様の施設がある。児童相談所の状況に合わせて、特化すべき対応を分け合うようにしてはどうかと考える。

双方の施設とも、来るべき卒園にむけて、職業訓練や自立支援を充実させていただきたいと思う。

〔成田委員〕

社会福祉法人ルンビニ園では施設概要について説明があり、児童養護施設として民間運営のメリットとデメリットを伺い、富山県は全国的に見て児童家庭支援センターなどの施設が少なく民間への負担が大きいと思われる。行政からの支援体制の強化を検討する必要性を感じた。

富山市立愛育園・慈光園については近年、空調やボイラーの更新など、維持管理費もかかってきているが、今でもきれいに利用されている施設であった。

今回の視察で、現状を知ることや利用者の声を聞くことも大切で、定期的に視察や訪問することの必要性を感じた。

令和4年9月30日（金） 富山市民プール



富山市民球場



社会福祉法人ルンビニ園



富山市立愛育園・慈光園

